

## スタートアップ企業の業務基盤となるシステムを導入


～企業規模の拡大、業務量の増大に対応～



情報システム部 開発グループ 課長補佐  
友田 哲朗 氏

経営管理部 経営管理グループ 主任  
平井 美保 氏

経営管理部 長  
和泉 一波 氏

	<b>KDDI ファイナンシャルサービス株式会社</b>
事業内容	: クレジットカード事業、決済代行事業、銀行代理業
社員数	: 62名 (2016年7月)
会社設立	: 2014年2月
所在地	: 東京都港区西新橋二丁目3番1号 マークライト虎ノ門 13階
代表取締役	: 石月 貴史
資本金	: 5,245百万円
<small>auユーザー向けクレジットカード事業（「au WALLET クレジットカード」「au WALLET ゴールドカード」）を展開。社名を聞けば、金融系のお堅い大企業を想像してしまいがちですが、会社設立は2014年2月、まだ新しい企業。KDDIグループからの出向社員でスタートし、2年を経て企業規模が急拡大、業務量も大幅に増大し続けています。成長過程にあるKDDIファイナンシャルサービス株式会社が、「ManageOZO」に期待するところは？</small>	

■ 導入製品	ManageOZO
--------	-----------

### ◆ 導入経緯

#### — 導入に到るまでの経緯について教えてください —

**和泉**：設立当時、当社は紙ベースでの稟議回覧、経理処理を行っていました。勤怠管理についても Excel での管理でした。会社設立当初の出向者だけの場合は、システムは必要なかったのです。ところが2014年7月から正社員を採用することになり、その後も社員数が増大することを踏まえ、まずはしっかりと勤怠管理のシステムが必要と考えました。そしてもう一つのニーズとして、稟議システム、財務会計システムです。これらも社員数が少ない頃は問題ありませんでしたが、企業規模が拡大した場合には、とてもやっていけないとわかっていました。しかも、稟議と会計のシステムは、KDDI 本体にももちろんありますが、それに近い形がコンプライアンスの面からも、これまでの業務の進め方から行っても望ましいと考えられました。それで、3点一緒に導入できること、しかも KDDI の仕組みに近い形にカスタマイズできる、さらに企業規模に見合う費用で、この3つがポイントでした。

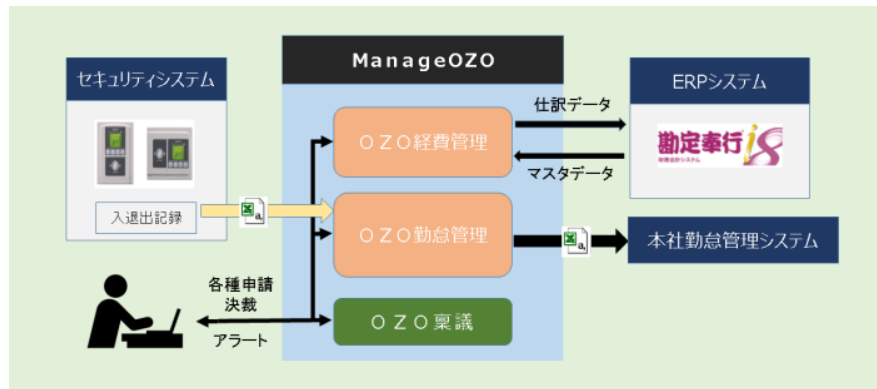
#### — 基幹システムを新規に導入するということで、どんな検討をしたのでしょうか？ —

**和泉**：同じ機能の製品と比較して……、ということよりも、コストと素早く導入できるということが最優先でした。KDDI グループ会社に Manage シリーズを導入している企業があり、その紹介で ManageOZO を知りました。実際に、カスタマイズして運営されているところを見て、コストと機能を勘案すると全く問題ない。それで決めました。カスタマイズはいろいろと無理を言ったかもしれませんが、しっかり対応していただいて非常に感謝しております。

### ◆ カスタマイズのポイント

#### — 勤怠管理、稟議システム、勘定系システム、すべてがカスタマイズされているということでしょうか？ —

**和泉**：そうなります。勤怠管理は、セキュリティー会社の入退室のログをそのまま反映しています。非常に難しいところもあったのですが、しっかりと対応していただいてすごく良かったと思っています。とても使えるシステムになっています。



**友田**：オフィスの入退館時刻と出退勤の申請時刻との乖離が大きい場合には、サービス残業が疑われるのですが、その理由を記入させる仕組みを入れるなど工夫しました。

他社にも同じようなニーズがあって、残業対策のために導入されているようです。

**和泉**：稟議システムについては、KDDIと同様のしくみを導入することは予算的に難しいので、運用面でカバーしました。

**平井**：勘定系のシステムは、ManageOZOを導入する前からOBCの勘定奉行を使っており連携が必須でした。従来は、すべて紙ベースで、経理で仕訳して入力するというような処理をしていました。また、勘定奉行との連携に手作業が必要な部分があり、コンプライアンス上に課題がありました。それが今は担当者が仕訳のところまでやってくれる形になってシームレスに連携できるようになり、リアルタイムで帳簿残高を確認することができるようになりました。業務効率が高くなり、人的なミスもなくなり、勘定奉行との連携は大変重要なポイントでした。

**和泉**：「経理のシステムは、グループの基準に準拠し、かつ、使い勝手のいいシステムになったと思いますよ（笑）」。

## ◆今後の展望

### —「ManageOZO」導入によって業務がどのように変わったか、今後、どんなことをやっていくか教えていただけますか？

**友田**：2015年に入り、経営管理部から改善要望が多数あり、それをやらなければならないと考えています。KDDIグループの経営管理\*1では年間の経営計画であるマスタープラン管理が非常に重要なのですが正直、その部分のシステム化に難航しているのが現状です。何か月もITCSさんに相談して、一緒に構想を練るところまでは来たのですが2015年度中には実現できませんでした。このシステムの実現は今年度も継続し、情報システム部の目標として挙げさせていただいています。

**和泉**：経験して分かったことは、会社の立ち上げ期において、勤

\*1 KDDIの経営管理手法では、時間当たり採算＝（売り上げ－経費）÷労働時間」を算出し、時間当たり採算の最大化を図ることが一つの指標とされています。

怠管理、稟議システム、経理、この3つをまずは導入し企業としての体裁を整えること、これでしばらくは大丈夫じゃないかと思うのです。これは対外的にも従業員のモチベーションに対してもとても大事なことです。では、3つそろえるだけでいいかというと、形だけそろえてもあまり意味はありません。「管理」という言葉、特に「管理される」と言う悪いイメージが強いですが、適度な管理をすることが社員の「安心」につながり、生産性を向上させると考えています。管理することによって安心できる、例えば、家庭で奥さんが財布を握って貯蓄を管理するみたいなもので、細かなことを気にせず業務に集中できるようにするための管理です。管理することによって、証憑が残っている、稟議が残っている、業務が確かなものになり生産性が高まる、そんな管理です。今後は、マスタープラン管理の仕組みや経営判断に役立てるためのデータ分析などやっていきたいことはいくつもありますが、最終的には社員が幸せになるためというゴールがあるはずで、我々のようにまだ新しい企業は、ゴールに向けて新たな企業文化を作っていかなければなりません。こうしたシステムは、会社の文化を築いていくためのツールだと考えています。

(敬称略)

## ❖取材後記

勤怠、稟議、会計のオールインワンでOZOを選んでいただいたことがよくわかり、しっかりと活用いただいていることが伝わってきました。また、弊社の対応を評価していただけたこと、非常に光栄で嬉しく思いました。和泉部長のバイタリティに圧倒されっぱなしでしたが、「社員が幸せになるために仕事があり、社員を幸せにするのが会社の責務」というお話はグッときました。熱い思いに触れ、私たちが単なるシステム以上に意味があることなのだと、改めて気を引き締めていきたいと思いました。

お忙しいところ取材にご協力いただきましてありがとうございました。

企業情報  
株式会社 ITCS  
URL: <http://www.itcs.jp>

ITCS

本社所在地  
〒450-0003  
名古屋市中村区名駅南一丁目17番29号  
広小路ESビル8階〔地図〕  
Tel: 052-217-2488 / Fax: 052-217-2489  
東京支店  
〒160-0022  
東京都新宿区新宿1-36-4 丁子屋ビル3F〔地図〕